

情報公開と危機管理

外務省の条約局長などを歴任した東郷和彦さんが言う、「情報は公開するべきで、その評価は歴史の判断に委ねる」。ただし、国益に反する情報や当事者である外国人に迷惑をかけるような情報は、後日公開するべきで、これは「信義」の問題である。

この伝で言えば、菅を首相に選んだ民主党政権は、情報秘匿の宝庫のようなもので、いくらでもでてくるがもっとも大きな失策は、福島原発でメルトダウンが、地震後 16 時間（諸説あるが、いずれにしても数時間から十数時間で）最大の懸念であったメルトダウンが発生していたことである。このことは日本のみならず、世界中の関心事であった。これをあわよくば隠蔽しつづけようとしたことで、世界中の原子力関係者から「全く信頼されていない。そして菅政権ではこの事故の収束が望めない」ことが露見したことである。事故後 3 ヶ月も経ってから「メルトダウンしていました」では、放射能を浴びた住民が納得できるわけがない。厚生省の医科系技官が、原子力安全委員会委員長の斑目氏を「デタラメ」と吐き捨てるように表現したことからも明らかである。保安院に到っては、信頼どころか、また嘘を垂れ流しているくらいにしか思われていない。

「政府も保安院も人でなし」とある官僚が述懐したらしいが、是非、これに「東京電力（以下、東電）」も付け加えて欲しい。たとえば、SPEEDI のデータを公開しなかったため、30km 以上離れた飯館村など、まったくの被曝実験台になっていた。そして当然ながらその他の「30km どころか 100km 以上離れた宮城県や静岡県まで被曝していた」ことが、のちに判明する。これほど国民を愚弄するものはないだろう。・・・ただし、国民も知的レベルが低く、パニックをおこしていたかもしれないが、これなら 50 年前、核実験のために、小学生だったわれわれに対してストロンチウム 90 やセシウム 137 に被曝するから雨に濡れるな！といていた時代から進歩していない。

政府首脳が東電に視察（単なる見学）に行く時には、SPEEDI のデータをあらかじめ確かめていたはずである。これを全くオープンにしなかった意図についてはまったくわからない。

6 月、7 月とコラムが飛んでしまったのは、文章はできあがっていたのだが、われわれ程度が悲憤慷慨したところで政府がよくなるわけでもなし。たんなる「ぼやき」におわるだろうからで、この日本をどうしたいのか、どの方向に以って行きたいのか、皆目見当が

つかず、政府内部でも混乱しきっていたようなのだ。「慌てふためいていた」。馬鹿々々しくて表にだすことなど考えられなかった。

フランスアレバ社製の循環冷却装置も当初は、開閉の弁を反対にしていたり、水漏れがみつかったり、子供並のレベルである。アレバ社の悪口はともかく、1週間と続けてまともに運転しつづけることができないなど、言語道断である。……本来なら不慮の事故に際して日本国が、使用するしないはともかく、開発保持していなければならない器械ではないか！

極めつけは、東電に当事者意識が全く感じられないことである。こんな程度の会社に関東の電力を依存し、自家発電を開発しようとしたら邪魔をしてきて、蓄電池もおなじ。東京の安全地帯にいて、ああせえ、こうせえ、では現場は納得しないだろう。現場の所長吉田昌郎さんがいればこそこの程度の人的被害ですんだ可能性が高い。

3月11日からのニュースを時系列的にもう一度じっくりと読み返してみればおのずからわかる話ではないか。

損害賠償の問題にしても、リストラをして社員数を減らし、は聞こえがいいけれど、今リストラされて、かれらの生活をどう考えているのだろう。そんなことよりも全社員の給料を半分にすればいい

じゃないか。株主総会に居並んでいる連中の家族を、今なお見えざる敵と悪戦苦闘している現場の作業員のことを考えたこともないのが並んでいるだけだ。「オレは知らないよ。」……すべてとまでは言わないが、歴代原発で蓄えてきた財産をはきださせるのが一番手っ取り早い。えらいさんの家族、ふつうは奥さんや娘さんが現場で冷たい弁当で辛抱している作業員に「熱々のご飯に味噌汁」をだしてやればいいじゃないか。長年その恩恵を蒙ってきたことに対するせめてもの「恩返し」をするべきだ。もともと自分たちの「人為的ミス・判断ミスによって発生した事故」ではないか。

社長が名古屋の方面に遊び(仕事?)に行っていたらしいのだが、さすがに大変だ!と思ったのだろう、小牧かどこかからヘリコプターで帰京しようとする、時間外だから「規則」で飛べない。(ここにも木っ端役人の根性が見えている。) やむなく自衛隊に頼んで東京までいったら、北沢だったか、防衛大臣が勝手に自衛隊機を使うな、と追い返した。……もう亡国の一途を辿っているとしか表現しようがない。……のちに「亡国」は再登場する。

そうこうしているうちに、宮城県・岩手県・栃木県・福島県全体やはるか三重県などにも肉牛の肉から放射能が検出され、これは宮

城県の飼い葉の藁束に含まれていたのがひろがったらしいのだが、これも早くから現地では放射能を測定してくれ、という要望があったのに何もしてこなかった。野菜のみならず主食の米も同様である。

内閣官房のスタッフが菅をまるきり信用していないし、菅は菅でなにひとつ具体策を提言できず、米国からの親切な高濃度汚染地域を指摘されていながら、無視してきた。この無能さ、無責任、国民への配慮のなさ、先を読む眼の曇り、場当たりの発言、その場しのぎの連続。スタッフが「これほど卑怯な人間を見たことがない。」「これほど軽蔑すべき人間もいない」と完全に見切っている。現在の地位に執着があるのだろうが、最早卑怯未練で見苦しい限りである。

日本からいくら情報を発信してもどこの国も相手にならない。ある日、突然、天啓のごとくに「脱原発」を言い出す。しばらくは、私個人の見解です。1週間もたてば、内閣全体の統一見解である、に変わる。代替エネルギーもなにも考えていないし、火力発電で石油でも石炭でも天然ガスでも外国からの輸入に頼らざるを得ない。当然相手は足元を見て値をつりあげる。経済・産業を見捨てますか？

ここに到って、わが国は亡国の一途をたどっているのではないか、と思わざるを得ない。なんら希望の見える政策がでてこないのではあ

る。・・・あと 3 ヶ月もすれば雪が降り始める。被災者は不安で仕方がないだろう。・・・ **亡国宰相**としか表現できない。

8月6日、原爆記念日。原爆開発の記録。陸軍上層部はある程度原爆のことや攻撃される場所を知りながら、無防備な無辜の民を見殺しにした。現在の政権とかわらないではないか。2011.08.06.

8月末、東電も高さ 10 メートルの津波に対する対策を考えていたが、保安院に報告しても、いつの間にか有耶無耶になってしまったという。「保安院無用論・無能論」である。 **人でなし**である。

このたびの大震災で思いがけずわかったことがある。ひとつは、ある市立病院で胃カメラの検査ができなくなってしまった。つまり消毒薬をこの地方から入手していたことである。そうだったのか、という感じ。その他の薬でも入手困難になった薬はいくつかある。

ニュースで、IT 関係だったか、世界のシェアの 4 割とか 7 割とかの中小企業があったことがわかったことである。日本政府もまったく気がつかず、世界中が慌てている。政府はなぜこの企業を優先的に援助しないのだろうか？

日本が平和ボケしていて、コンピューター・ウィルスのチェック

ができない。米国なんか必死でウィルスバスターをさがし、この人を米国で保護下に置く、ということをおこなう。日本政府はそういうことがあったということにも気がついていない。(ゴルゴ 13 に載っていた。) まあ、そういう面では無神経、ノーマスであることは、現政府のみならず、前政府でも同じだった。

鳩も管も三歩歩いたら、国会や閣議で決めたことを忘れる。そして帰宅してもっとも長い時間を共にする「愚妻」の言うことが唯一正しいと思い込んで、翌日自分の意見として発表する。経済界も各大臣なども何が起こったのか理解できない。……こんな程度のおばちゃんが考えたことが国策として日本の将来を決定する。世界中から相手にされないのも当然だ。

コラムを再び書こうと思ったのは、なでしこ JAPAN の活躍で、試合後世界中の人々に対するメッセージで、「世界中の友人たち、日本への支援に感謝します」、と横断幕をピッチで観客席にみせたときである。どれほど多くの日本人に再びやる気をおこさせたのだろう。彼女らの活躍に多くの人が勇気付けられた。……政府がなにをしても言っても信用されないことを思えば、はるかに説得力があった。